

令和8年度 学校自己評価計画書

重点目標		具体的取組	主担当	現 状	評価の観点	実現状況の達成度判断基準	判定基準	備考
1	授業実践力の向上 (教科指導の充実と自立活動の指導の充実)	各部で抽出した児童生徒の自立活動の年間目標について、指導の充実を図るために、取り組んだことについて報告書にまとめながら、教員それぞれの取組について評価を行っていく。	教務 (研究)	障害のある児童生徒の自立に向けて基本となる「自立活動」を考える場合、日々の支援や指導の中で意識せず曖昧に行っていたり、指導者の共通理解が不十分であったりする。今年度は改めて「自立活動」について考え、理解を深めたり、指導の充実に取り組んだりしていく必要がある。	【努力指標】 児童生徒の自立活動の目標達成に向けて教員が取り組んでいく過程で、目標を意識して「十分に組み組めた」「概ね組み組めた」「やや組み組めた」「まったく組み組めなかった」の4段階で評価する。	児童生徒の自立活動の目標達成に向けて目標を意識して「十分に組み組めた」「概ね組み組めた」と答えた割合が A：80%以上である。 B：70%以上である。 C：60%以上である。 D：60%未満である。	中間評価が基準に満たない場合、取り組む時期や期間などの再検討を行う。	9月、2月にアンケートをとる。
2	地域社会との連携	交流の相手先と複数回交流を行い、活動が満足できるものであったか相手先や分校だよりや学部だより等で保護者に知らせる評価を得る。	全学部	昨年度は、交流先からおおむね良い評価をいただいた。ただ、相手先と複数回の交流につながっていないことが課題としてあるため、今年度は、複数回交流を行い、関係を深めていく必要がある。	【満足度指標】 交流を行うごとに、交流先や保護者にアンケート用紙を配布し、活動の目的に対する活動に対して「とても満足した」「満足した」「まあまあだった」「いまひとつだった」の4段階で評価する。	交流先や保護者からのアンケートにより、活動が「とても満足した」「満足した」と答えた割合が A：80%以上である。 B：70%以上である。 C：60%以上である。 D：60%未満である。	中間評価が基準に満たない場合、取り組む内容の再検討を行う。	交流を行うごとにアンケートをとる。
3	安心・安全な学校づくり	委員会活動において生徒自らが良い人間関係や適切なコミュニケーションができるための目標を立て、その目標が達成できたか評価を行う。	生活支援	学校が安心・安全な場所としてあるために、児童生徒が普段から良い人間関係作りや適切なコミュニケーションを意識できることがいじめ・不登校の防止の一つにつながると考える。また、委員会活動と連携をとることで、児童生徒が自ら目標を考え、実践できるようにしていく必要がある。	【成果指標】 月の始めに目標を伝え、月末に目標が達成できたかを「できた」「ややできた」「あまりできなかった」「できなかった」の4段階で児童生徒が評価を行う。	目標の達成が「できた」「ややできた」と答えた児童生徒の割合が A：80%以上である。 B：70%以上である。 C：60%以上である。 D：60%未満である。	中間評価が基準に満たない場合は、取り組む内容の再検討を行う。	取り組んだ月ごとに児童生徒にアンケートをとる。